

# 環境対策・社会貢献

—「社会のために」「社会とともに」持続的成長を実現

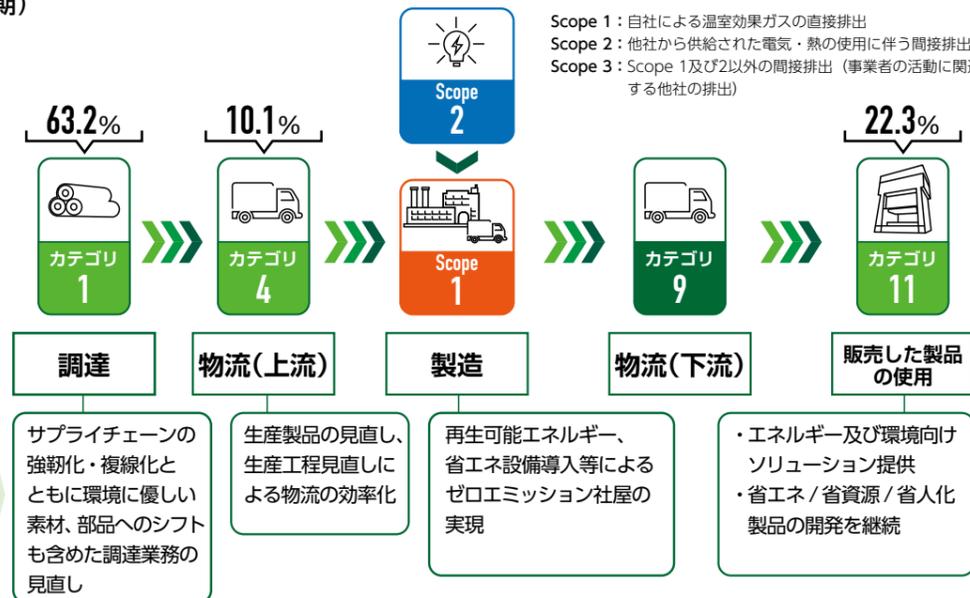
新中期経営計画の基本施策として、当社は環境対策・社会貢献の取り組みを掲げました。社内における環境・省エネルギーへの取り組みに加え、これまでに培われた技術・開発力を基盤として、再生可能エネルギー、省エネルギー、環境対応の新素材、生産性向上等の事業活動を通じて、環境負荷低減に貢献し、「社会のために」「社会とともに」持続可能な社会の実現に向けてさらなる成長を続けていきます。

## カーボンニュートラル取組方針

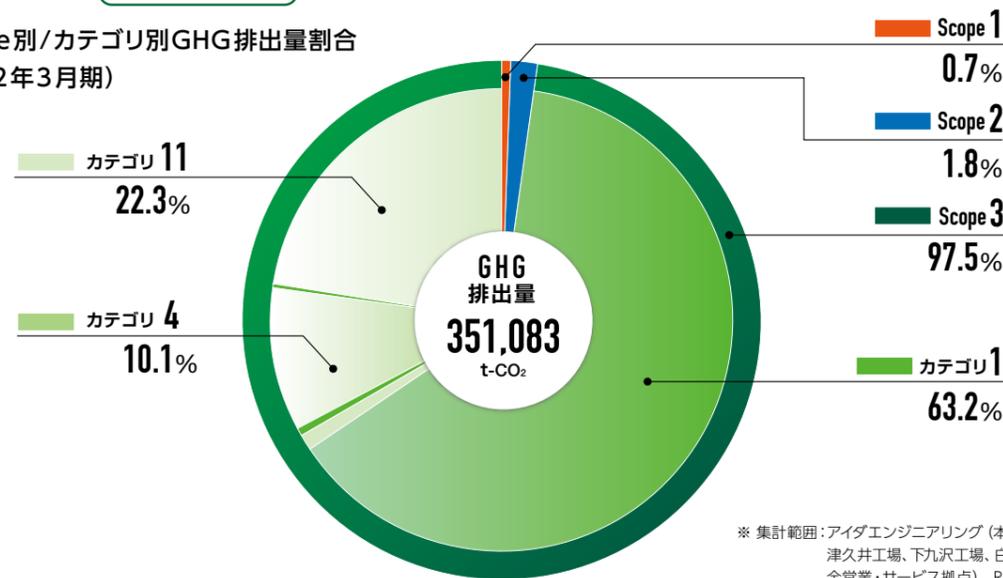
脱炭素、省エネ、省資源をはじめとする環境対応を当社の大きなビジネス機会と捉え、2050年のカーボンニュートラルを目指して、ESG課題の解決と企業価値の向上に努めてまいります。

2023年3月期より国内において調達・製造・物流・販売といった一連の流れ(サプライチェーン)全体で発生する温室効果ガス排出量の可視化を実施しました。今後、アイダグループ全体の温室効果ガス排出量の把握、管理に努め、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

## ◆ 温室効果ガス(GHG)排出量 (2022年3月期)



## ◆ Scope別/カテゴリ別GHG排出量割合 (2022年3月期)



※ 集計範囲: アイダエンジニアリング(本社相模工場、津久井工場、下沢工場、白山工場、国内全営業・サービス拠点)、REJ

## TOPICS 製品を通じたカーボンニュートラルの実現への貢献

当社サプライチェーンにおける2022年3月期の温室効果ガス(GHG)排出量は合計351,083t-CO<sub>2</sub>となっており、そのうち市場での当社製品使用による生産活動を通じたCO<sub>2</sub>排出量にあたるScope3 カテゴリ11は78,322t-CO<sub>2</sub>と全体の約22%を占めています。

当社主要製品であるプレス機械によるプレス加工は、切削加工等と比較して材料のロスやスクラップ発生量が少ないだけでなく、大量生産における加工効率も高く消費電力の少ない工法ですが、当社では

それにとどまらず、従来以上に省エネへの貢献度の高い製品開発に取り組んでいます。

当社が世界に先駆けて開発したダイレクト駆動式サーボプレスは、電源とサーボモーター間の回路に大容量のキャパシターを有することで、加工時のピーク電量を抑え電圧を安定させることに加え、回生電力をキャパシターに蓄積して一次電源をマネジメントすることにより、省エネを実現しています。

電力画面では製品1個当たりのCO<sub>2</sub>排出量まで算出することも可能です。



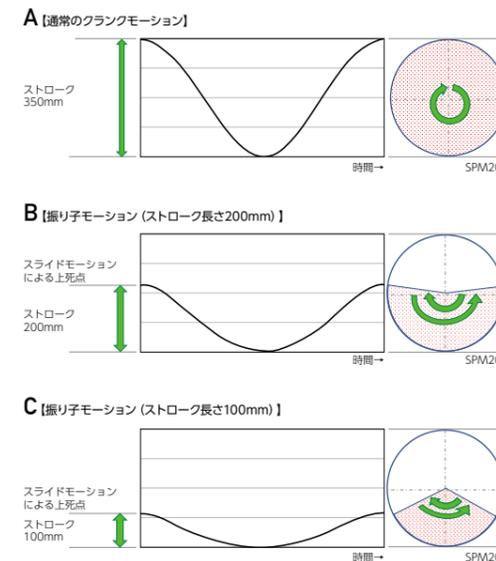
CO<sub>2</sub>排出量表示グラフ



ダイレクトサーボフォーマー DSF-N2-4000A

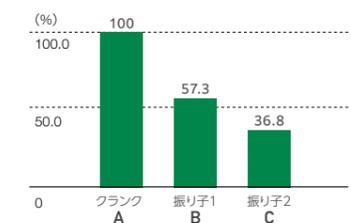
また、サーボプレスの最大の特徴は、コンピューター制御により加工に合わせて成形速度やスライドモーションを任意に設定できる点で、この利点を活用し、成形性や生産性の向上だけでなく、プレス運転時の消費電力を削減し、CO<sub>2</sub>排出量を抑制することが可能です。

当社ではこうしたプレス機械製品の提供を通じて環境に優しい製造工程の実現に貢献するとともに、製品のエネルギー効率性を高めることが重要課題であると定め、継続的に製品の改善に取り組んでいます。



ストローク長さの小さい振り子モーションの場合、生産性も省エネ性も、最も高くなっています。

### 1パンチ当たりのCO<sub>2</sub>排出量 (クランクモーションを100とした場合)



	ストローク長さ	基準SPM	サイクルSPM	CO <sub>2</sub> 排出量/1パンチ (gCO <sub>2</sub> )	クランクモーションと比較した排出量 (%)
A クランク	350mm	21	21	2.25	100.0%
B 振り子1	200mm	21	35.5	1.29	57.3%
C 振り子2	100mm	21	51.4	0.83	36.8%

## 気候変動等経営上のリスク・機会となりうる外部環境課題への取り組み

当社は、環境保全管理活動の推進を図ることを目的として「アイダ環境方針」を定めています。中期経営計画においては「環境・省エネ・技術進歩を支える先進企業として社会に貢献する」というビジョンを掲げ、環境負荷の低減とともに、環境性能・省エネ性の高い製品の開発にも取り組み、さらなる成長を目指しています。事業を継続し持続的に成長していくため、気候変動等に伴うリスクと機会を把握し、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言に基づいた情報開示に努めてまいります。

### ◆ ガバナンス

#### 環境方針

アイダエンジニアリング株式会社は「人と技術のハーモニー」を合言葉に人にやさしい環境づくりと成形加工分野におけるオリジナル・テクノロジーの追求に挑戦していますが、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つである事を認識して、プレス機械及び自動化装置、付属装置の設計・製造・販売等の事業活動を行う面で環境保全に配慮する風土を確立し行動します。

#### 環境管理体制(略図)

当社は社長を最高責任者とし、各部門から選任された委員で構成する環境管理体制を整備し、社内全体で効率的な環境保全活動を推進しています。



### ◆ 戦略

潜在リスク	
物理的リスク	
・洪水や自然災害等、異常気象により、自社製造製品やサプライチェーンの操業に影響を受けた場合、販売に影響を与え、さらに操業設備回復のために多大な費用が必要となる可能性がある。	
移行リスク	
・製品・サービスに適用されるエネルギー効率規制の強化により、製品の設計・開発への対応が不十分な場合、販売機会の損失に繋がる可能性がある。	
・環境税・炭素税導入による税負担の増加並びに製品原価の上昇に伴い売上に影響する可能性がある。	
・自動車の電動化、軽量化が要求する代替原材料への研究・開発費の増加により収益に影響する可能性がある。	
・気候変動等への取り組み姿勢の評価変化により企業価値が低下する可能性がある。	
機会	
・生産活動における省エネ設備の導入やエネルギー使用の効率化によるコスト削減で、商品競争力が向上する。	
・自動車の電動化、軽量化に関する製品の技術開発を進め、より省エネ性・生産性を高めた競争力の高い製品を開発し、商品競争力が強化される。	
・自然災害発生時等、万全なサービス体制による素早い対応(機械復旧/消耗品納入)によりサービス対応充実、信頼向上による販売機会増加に繋がる。	

### ◆ リスク管理

当社は経営戦略に係るリスクについては、関連部門においてリスクの分析と対応策の検討を行い、必要に応じて取締役会、経営会議で審議を行っています。気候変動等に係るリスクについては、全社的な重要リスクの一つと位置づけており、物理的リスク、法規制・マーケット等の移行リスクについて、必要に応じ対応策の策定を進め、情報開示を進めていく予定です。

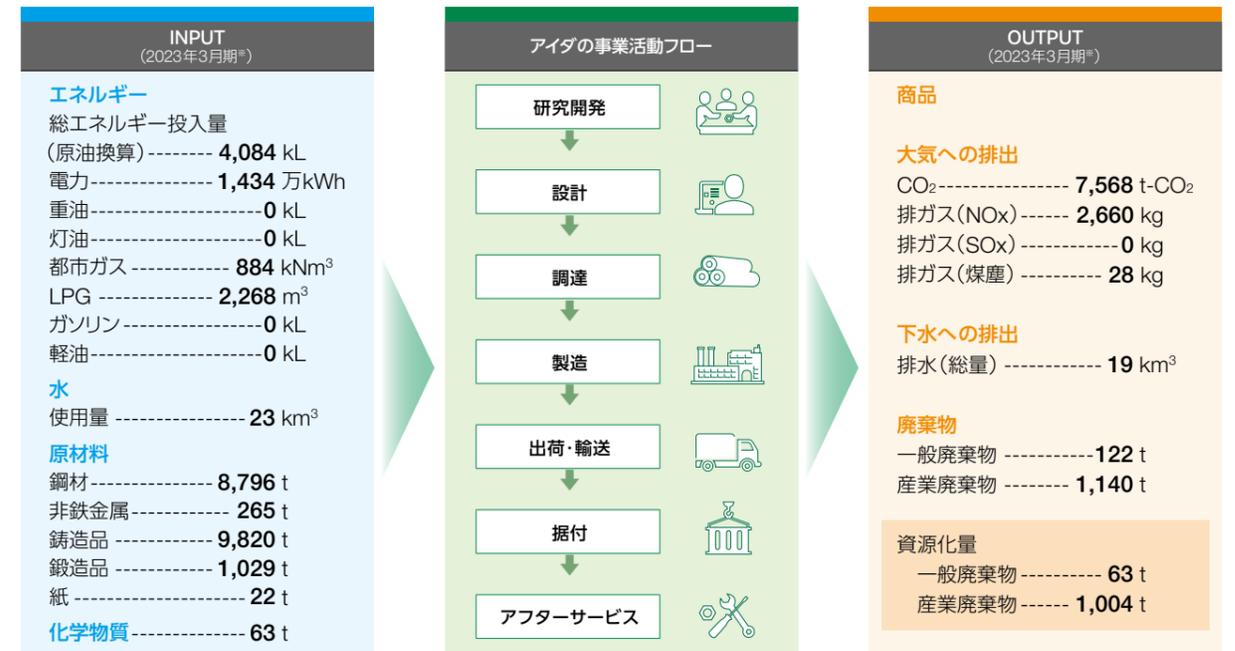
### ◆ 指標と目標

当社では、環境方針に基づき法令及びその他の要求事項、環境に著しい影響を及ぼす要因等を考慮し、環境目標を設定のうえ、法規制遵守の維持、環境保全の取り組み改善、環境に配慮した製品の開発に努める等、環境に配慮した事業活動に取り組んでいます。

環境目的	2023年3月期 目標	2023年3月期 実績
廃棄物の資源化推進と発生量維持(再利用・再生利用の推進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発生量*維持目標 相模原: 1,600t以下 白山: 110t以下</li> <li>● 産業廃棄物資源化率 相模原: 86%以上 白山: 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総発生量 相模原: 1,161t(目標達成) 白山: 101t(目標達成)</li> <li>● 産業廃棄物資源化率 相模原: 89%(目標達成) 白山: 78%(目標未達成)</li> </ul>
省エネルギーの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギー総使用量(原油換算) 相模原: 4,450kL以下 白山: 285kL以下</li> <li>● CO<sub>2</sub>排出量(原単位換算) 相模原: 37.0t-CO<sub>2</sub>/億円(生産高)以下 白山: 12.0t-CO<sub>2</sub>/億円(売上高)以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギー総使用量(原油換算) 相模原: 3,854kL(目標達成) 白山: 230kL(目標達成)</li> <li>● CO<sub>2</sub>排出量(原単位換算) 相模原: 27.2t-CO<sub>2</sub>/億円(生産高)(目標達成) 白山: 12.7t-CO<sub>2</sub>/億円(売上高)(目標未達成)</li> </ul>

※ 発生量: 一般廃棄物と産業廃棄物の合計 ※ 相模原の集計範囲(本社相模工場、津久井工場、下九沢工場)

### マテリアルバランス(Scope1)



※ 2023年3月期の当社製造工程における環境負荷(各数値は小数点以下を切り捨て) 集計範囲: アイダエンジニアリング(本社相模工場、津久井工場、下九沢工場、白山工場)

### TOPICS アイダグループの社会貢献活動

当社は2023年5月に、国際自転車競技公認レースの一つで「日本版ツール・ド・フランス」ともいわれる国内最大規模のロードレースである「Tour of Japan 2023相模原ステージ」にスポンサーとして協賛しました。相模原市は、東京五輪ロードレース開催地でもあり、五輪競技のコースの一部を使用した熱い戦いが展開されました。当社は相模原市に本社を置く数少ないプライム上場企業であり、地域社会の一員として、地域活性化及びスポーツ活動の支援を通じての社会貢献にも努めています。



提供:TOJ組織委員会